

海洋工学部

航海士の資格が取れる、全国に2つしかない大学であるから。

私は将来、大震災が起こるといわれている地元静岡県で、災害に強い物流システムを構築したいと考えていて、そのシステムの研究を行っている憧れの教授がいるから。その教授の下で学びたいから少人数教育なのでプログラミングなどを学ぶ際により詳しい内容を学べると思ったから。



高校二年次に、水中ロボットコンペティション in JAMSTEC に参加したことをきっかけに、海洋開発ロボットへの興味が非常に高まった。その後、様々な研究を調べたが、海洋大の AUV 向け非接触給電装置の研究開発を知り、これこそが海洋開発ロボットの未来であると確信したため。

一年次と二年次で実習があり、実際に機械とかに触れることができる機会が多くていいと思ったから。

海上技術安全研究所のような設備が整っており、本格的な研究が行えると思ったから。

工学部といっても他大学とはかなり違う特色で自分のやりたいことができるから。



もっと読みたい！
先輩が東京海洋大学に入学を決めた理由



TOPIC

海事英語学習・評価プログラムの開発

海事・海洋英語教育の世界拠点を目指して。

文部科学省・現代 GP によるプロジェクト「海事英語学習・評価プログラムの開発」が平成 19 年度で終了し、海事・海洋英語データベースと海事英語検定試験の開発、及び「体験型海事英語学習プログラム」の確立という当初の目標を達成することができました。プログラムの詳細・報告書はホームページをご覧ください。

本学ではこの取組みを継続し、平成 20 年度以降、毎年度練習船（海鷹丸・汐路丸）での訓練航海中の海事英語訓練、海外から教員・学生を招聘した短期セミナーを実施し、海事英語教育の国際拠点を目指しています。

● プログラムの詳細・報告書

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~takagi/mei/index.html>



キャンパス	越中島
学科数	3
入学定員総数	160
学科別募集人員	
海事システム工学科	59
海洋電子機械工学科	59
流通情報工学科	42

海洋工学部は「海から未来へ」を合言葉に、広く世界へ、未来へと羽ばたく逞しい若人を育てています。目指すは、実践的な工学の知識と技術を身に付け、リーダーシップを備えたプロのエンジニアです。

このため海洋工学部には、「海事システム工学」「海洋電子機械工学」「流通情報工学」の3つの学科をおき、それぞれ特色のある教育研究を行っています。

海事システム工学科では国際性を備えた高度海技者としての航海士、船舶運航技術者、海事産業を支える技術者の養成に、海洋電子機械工学科では船用総合プラントの運用技術者として高度な知識と技能を持ち、機関士のみならず、船舶、陸上のメーカーで研究開発や運用に携わる人材の養成に取り組んでいます。流通情報工学科は、国立大学で唯一の工学系の物流専門学科として、世界と日本の物流問題を工学的、数理的な観点から取り扱うことのできる技術者の養成に取り組んでいます。

いずれの学科も、現実、現物、現場を重視した実学教育を実践しています。また、少人数の学部の特性を活かし、きめ細かな修学指導、進路指導により、高い就職率を誇っています。

海事システム工学科

海事システム工学科伝統の「全人教育 (all-round education)」、及び船舶実習、海事英語教育などの実践的な教育により、高いスキルを持った優秀な海事技術者、すなわち、1) 乗船経験を活かして船舶の運航管理及び保守管理ができる船舶管理者、2) 船舶の運航の視点から海事関連の機器・装置・システムの設計・開発、港湾・航路の設計・監理も含めた幅広い「ものづくり」ができる海事工学技術者、3) グローバルにリーダーシップを発揮でき、世界の海技教育をもリードするような次世代の海技士など、海事分野の次代を担うプロフェッショナルな人材の養成を目指します。



海洋電子機械工学科

船舶機関、海洋機器や海洋環境に関する問題に関心を持ち、幅広い教養と豊かな人間性ととも、機器を開発するだけでなく管理・運用するまでの幅広い技術分野において、理論と実践が調和した知識に基づいて問題を解決する能力を身につけ、国際的にも活躍できる人材としての高度専門職業人の養成を目指します。



流通情報工学科

我が国の衣食住を支える物流と、それを高度に機能させる情報システム、環境対策も含めたグローバルな経済活動の問題に関心を持ち、専門的知識を含む幅広い教養と豊かな人間性ととも、課題の理解と解決に必要な高度な技術を身に付け、国際的にも活躍できる人材としての高度専門職業人の養成を目指します。



海洋工学部長
井関 俊夫



次世代の海洋利用技術を開発する頭脳明晰で
発想力豊かな若者を求めています。

海洋工学部は、前身の東京商船大学から数えて140年を超える歴史と伝統を持ち、船舶の運航や管理、動力機関、海洋機器、海上輸送などに関連する教育研究を行ってきました。日本が高度経済成長を遂げた後は、環境保護や省エネルギーにも教育研究の対象を広げ、その時代における社会の要求に応じてきました。

教育上の特色としては、現場、現物、現実を重視した少人数クラスでのきめ細かな修学指導があげられ、海事関連社会で活躍する優秀な人材を育成しています。近年では、大学改革の一環として、海洋開発及び環境エネルギー分野に関する「高度海洋技術者専門コース」を開設し、海洋基本計画等で求められる海洋人材を輩出しています。さらに、流通情報工学科では、2020年度から統計学や人工知能をベースとしたAI・データサイエンス系科目群をカリキュラムに新設し、次世代を担う人材育成を行います。グローバル教育に関しても、学部の特性に合った海外インターンシップを実施するとともに、練習船、各種シミュレータなどをフルに活用した海事英語教育を行っています。

海事システム工学科

安全で効率の良い船舶運航の実現を目指して、明治の頃より連綿と積み重ねられた経験と知識、そして最新の先進的技術、その両方を融合して駆使する特徴ある分野です。海事システム工学科では、航海（ナビゲーション）技術や情報処理技術のほか、語学や法律などを幅広く学びます。

私たちは、皆さんが将来「専門的な職業人になる」または「学究的な挑戦をする」機会を準備しています。

教育内容の概要

実学を重視した講義、実験、演習を中心に、1年次から専門科目を基礎から応用に向けて学習するようにカリキュラムが組まれています。海事技術者としての幅広い視野と豊かな人間性を育てるために、4年間を通じて文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系科目からなる総合科目を学びます。1年次から2年次前期までは、専門科目の基礎となる数学、物理、情報系科目からなる基礎教育科目を学びます。短艇実習、海洋実習や海技教育機構の大型練習船による乗船実習（合計2ヶ月間）を通して、リーダーシップや協調性を修得します。2年次後期からは、船舶管理または海事工学の教育プログラムを選択し、専門科目を学びます。

1. 船舶管理教育プログラムでは、船舶の運航管理や保守管理ができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
2. 海事工学教育プログラムでは、運航者の視点でものづくりができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
3. 海技士資格の取得を目指す学生は、船舶管理または海事工学の教育プログラムだけでなく海技士科目を学び、世界の海技士を教育し、リーダーシップを発揮できるための知識や技術を学びます。4年次の乗船実習（合計4ヶ月）、卒業後に乗船実習科（6ヶ月）に進学することで三級海技士（航海）免許の取得が可能です。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	総合科目	文化学系 哲学・科学論系 社会科学系 健康・スポーツ系 外国語系			
	基礎教育科目	●航海システム概論* ●計算機科学 ●情報処理基礎論*			
	海事工学系		●信頼性工学 ●通信ネットワーク ●海事情報処理 ●船体構造論	●計測工学Ⅱ ●制御工学 ●航海システムⅡ ●船舶制御 ●浮体運動論 ●航海システムⅢ ●船用工業実務論	●マリナーズファクターと安全運航 ●機関システム工学概論
	資格・海技士系			●航海英語Ⅰ,Ⅱ ●海事法規	●Topics in Maritime Linguistics ●船舶医学 ●海上無線法規 ●海事システム工学実験演習Ⅴ ●海事教育技法 ●国際海事訓練セミナー ●船舶実習Ⅱ ●船舶実習Ⅲ
	船舶管理系		●海運経営論 ●国際法 ●海洋環境学 ●安全工学	●輸送管理 ●船舶運航論 ●保険契約法 ●損害賠償法	●組織管理論 ●海商法 ●海運実務論
演習系・実習系	●短艇実習Ⅰ* ●海洋実習* ●船舶実習Ⅰ*	●短艇実習Ⅱ* ●船舶実習Ⅱ* ●海事システム工学ゼミナールⅠ* ●キャリア形成論	●海事システム工学実験演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ* ●海事システム工学ゼミナールⅡ,Ⅲ* ●船舶実験（汐路丸）* ●海洋開発環境エネルギー概論	●卒業研究*	
共通基礎専門系	●海事システム工学概論* ●電気工学*	●船舶基礎力学* ●電子通信工学* ●信号情報処理* ●アルゴリズム*	●大気環境学* ●抵抗推進論* ●計測工学Ⅰ* ●航海システムⅠ*	●運航管理* ●船体管理*	
基礎数理系		●ラプラス・フーリエ解析 ●最適化数学 ●確率論 ●振動と波動 ●複素解析		●数値解析	

1 週間の時間割例

[3年次(前学期)] 海事工学系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	運航管理		航海システムⅡ	文学	制御工学
2	計測工学Ⅱ		情報数学	海事法規	海事システム工学ゼミナールⅡ
3	航海英語Ⅰ	海事システム工学実験演習		水中考古学	海事システム工学実験演習
4		海事システム工学実験演習	海商法	Interactive EnglishⅠ	海事システム工学実験演習
5	船舶運航論	海事システム工学実験演習			海事システム工学実験演習

[3年次(後学期)] 船舶管理系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	浮体運動論	輸送管理	航海システムⅢ		歴史学
2	組織管理論		保険契約法	船体管理	海事システム工学ゼミナールⅢ
3		海事システム工学実験演習	数値解析	国際輸送実務論	海事システム工学実験演習
4	航海英語Ⅱ	海事システム工学実験演習		Interactive EnglishⅡ	海事システム工学実験演習
5		海事システム工学実験演習	海運実務論	船用工業実務論	海事システム工学実験演習

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(商船・工業)
- 第一級海上特殊無線技士
- 三級海技士(航海)※1
- 船舶衛生管理者※2

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び乗船実習科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

※2 乗船実習科(p.43)を修了後、講習受講により取得できます。

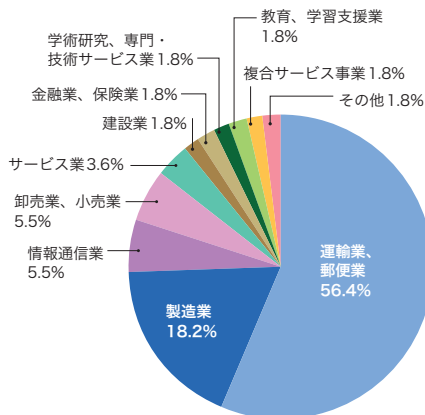
卒業後の進路

大学院進学	8.8%
乗船実習科進学	38.2%
就職	48.6%
その他	4.4%

乗船実習科への進学・修了後、77.8%が海上職に就いています。

主な就職先

出光タンカー、NSユニテッド海運、NTTデータウェブ、NTTデータシステム技術、NTTワールドエンジニアリングマリ、海上保安庁、川崎汽船、川崎近海汽船、海技教育機構、光電製作所、JXオーシャン、商船三井、商船三井客船、新来島どっく、全日本空輸、東洋信号通信社、日本海事検定協会、日本海難防止協会、日本海洋掘削、日本郵船、日立物流、ビューロベリタス(フランス船級協会)、ユニバーサルコンピュータシステム



平成31年3月卒業生産業別就職状況(令和元年9月乗船実習科卒業生含む)

学科担当教員の研究分野・内容

■ 知能システム

知的なマルチエージェントを用いた海上交通シミュレーションシステムや自律型の水中ロボット開発などの研究

■ 航行システム工学

航法および航行支援のための装置やシステムに関する研究

■ 航海システム論

情報通信技術等を利用した運航支援および支援システムに関する研究

■ 最適航路計画論

気象海象を予測して船舶の運航性能を推定し、最適な航路計画を行う研究

■ 制御理論、信頼性・安全性工学

制御システム、特に制御ロジックの安全性解析・設計に関する研究

■ 電子情報工学

ソフトウェア・ハードウェアを通じた画像処理技術の研究

■ 誘導制御論

船舶を中心とした各種ビークルの運動解析・予測・制御に関する研究

■ 海洋気象学

大気と海洋の運動や相互作用に関する物理学的研究

■ 船舶工学

船舶の構造と安定性、船体の運動における抵抗と推進に関する研究

■ 人間機械系工学

船舶運航者の情報処理と行動特性に適した船舶運航環境の構築に関する研究

■ 衛星測位工学

高精度位置決定に関する研究

■ 海洋文化学

海の人類学、考古学、歴史学の研究

■ 民法法学

保険法の研究

■ 国際法学・海事法学

国際法、海事法よりみた海洋、海運、船員に関する法的な研究

■ 言語情報学

自然言語の音声・統語・意味構造の科学的解明と英語教育への応用

海洋電子機械工学科

船舶に使用されている先進技術を結集した高効率推進システムや船内の住環境を確保するための各種インフラ機器、様々な機械要素を組み合わせたシステムやロボット等を教材として、機械、電気、制御等の工学の基礎から応用までを幅広く学びます。

バラエティーに富んだ講義科目と実験・実習・ゼミナールや大型練習船での洋上実習を通じて、船舶・海洋関連機器、各種プラント設備、省エネ・環境対策機器などのオペレーション、設計・製造・研究開発に指導的な役割を果たすことができる高度専門技術者を養成します。

教育内容の概要

「もの」をつくるだけでなく、低環境負荷および高効率で安全に運用する技術を含めた総合工学を基礎から応用に向けて学習するカリキュラムが組まれています。

1年次より国際的、総合的な視野を養うよう社会科学系や外国語系等の総合科目や専門科目と関連の深い基礎教育科目とともに専門科目を開講します。

1、2年次にそれぞれ1ヶ月の海技教育機構の大型練習船による乗船実習を実施します。講義による理論と実験、実習、演習とさらには実際の船舶による実習を通して、総合的に電子・機械工学などを教育します。

3年次以降は、機関システム工学コースと制御システム工学コースの2つのコースに分かれます。

1. 機関システム工学コースでは、基礎となる機械・電気・電子などの工学系科目に加え、主に船舶運航に関する工学について教育を行います。卒業までに最長で4ヶ月間の大型練習船による乗船実習が組み込まれており、船舶運航技術者として必要な教育を行います。また、所定の要件を満たすことにより三級海技士（機関）の取得が可能となります。
2. 制御システム工学コースでは、講義に加え実験や演習を通して、様々な機器、システムやプラントの設計・製造および管理の技術者として必要な機械、電気・電子、制御に関する工学について広く教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

(機) の付く科目は機関システム工学コースを対象に開講。

(制) の付く科目は制御システム工学コースを対象に開講。

		1年次	2年次	3年次	4年次	
総合科目	共通導入科目		文化学系科目			
	哲学・科学論系科目					
	社会科学系科目					
	健康・スポーツ系科目					
	外国語系科目					
基礎教育科目		<ul style="list-style-type: none"> 微分積分Ⅰ* 微分積分Ⅱ* 線形代数Ⅰ* 線形代数Ⅱ* 物理学* 数学演習 力学* 天文学 	<ul style="list-style-type: none"> 物理学実験 化学熱力学 統計学 計算機科学 情報処理基礎論 航海システム概論 電子機械工学入門* 基礎ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> 常微分方程式 基礎数学 電磁気学 物質科学 化学実験 契約法 		
専門科目	機関系	<ul style="list-style-type: none"> 機関システム工学入門* 	<ul style="list-style-type: none"> ターボ動力工学Ⅰ* 内燃機関工学Ⅰ* 補助機械工学* 電気工学* 	<ul style="list-style-type: none"> ターボ動力工学Ⅱ ガスタービン工学 内燃機関工学Ⅱ エネルギー工学* 海洋流体工学 原子力機関工学 	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍空調工学 流体機械工学 電気機器学 機関システム管理工学 	<ul style="list-style-type: none"> 電気推進基礎論
	機械系	<ul style="list-style-type: none"> 機械加工学 	<ul style="list-style-type: none"> 材料力学* 機械力学* 金属材料学* 環境材料学 	<ul style="list-style-type: none"> 工業熱力学* 伝熱工学 流体工学* 	<ul style="list-style-type: none"> トライボロジー 機械設計製図* 材料物理学 計算物理学 	
	電子・制御系		<ul style="list-style-type: none"> 制御工学Ⅰ* 基礎電子工学* 振動と波動 	<ul style="list-style-type: none"> 制御工学Ⅱ 電子回路論 	<ul style="list-style-type: none"> ロボット工学Ⅰ* ロボット工学Ⅱ ソフトウェア工学 制御工学Ⅱ 電子回路論 	<ul style="list-style-type: none"> 応用制御工学 半導体工学(制は必修) 計測工学 化学エネルギー変換工学
その他	A		<ul style="list-style-type: none"> 船舶工学Ⅰ 船舶工学Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 機関英語Ⅰ 機関英語Ⅱ(機) 国際法 	<ul style="list-style-type: none"> 海運経営論 海運実務論 	<ul style="list-style-type: none"> 船舶医学 海事法概論
	B		<ul style="list-style-type: none"> ラプラス・フーリエ解析 確率論 最適化数学 	<ul style="list-style-type: none"> 複素解析 データ構造とアルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> 信号情報処理 信頼性工学 情報数学 数値解析 	<ul style="list-style-type: none"> 船用工業実務論 海洋開発環境エネルギー概論
実験・実習等		<ul style="list-style-type: none"> 海洋実習* 短艇実習* 船舶実習Ⅰ* 	<ul style="list-style-type: none"> 電子機械工学実習* キャリア形成論 船舶実習Ⅰ* 	<ul style="list-style-type: none"> 電子機械工学実験* 制御システム工学演習*(制) 材料・機械力学演習* 熱流体工学演習* 船舶実験(汐路丸)*(制) 	<ul style="list-style-type: none"> 電子機械工学ゼミナール* 学外実習 船舶実習Ⅱ*(機) 船舶実験(汐路丸)*(制) 	<ul style="list-style-type: none"> 船舶実験(汐路丸)*(機) 船舶実習Ⅲ(機) 卒業研究* 職業指導 機関実務実習(機)

1 週間の時間割例

[2年次] 総合科目、基礎科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			民族史		ターボ動力工学 I
2	機械力学	補助機械工学	電気工学	内燃機関工学 I	制御工学 I
3	環境材料学	Effective English II	伝熱工学	振動と波動	
4	化学実験	確率論	電子機械工学実習	Interactive English II	基礎数学
5	化学実験				国際政治学
集中 (10月) / 船舶実習 I (2年次)					

[3年次] 専門科目、応用科目中心

[機関] …機関システム工学コースの科目
[制御] …制御システム工学コースの科目

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	計算物理学	ガスタービン工学	熱流体工学演習		
2	機関英語 II <small>[機関]</small>		トライボロジー	国際法	流体機械工学
3	原子力機関工学	ロボット工学 II	数値解析	Intensive English II	化学エネルギー変換工学
4	機械設計製図 <small>[機関]</small>	電子機械工学実験 <small>[機関]</small>	電子回路論	倫理学	計測工学
	電子機械工学実験 <small>[制御]</small>	機械設計製図 <small>[制御]</small>			
5			海運実務論	船用工業実務論	電子機械工学ゼミナール
集中 (11月) 船舶実習 II <small>[機関]</small> / 集中 (11月) 制御システム工学演習及び船舶実験 (汐路丸) <small>[制御]</small>					

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状 (商船・工業)
- 三級海技士 (機関)※1
- 船舶衛生管理者※2

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、機関システム工学コース及び乗船実習科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※2 機関システム工学コース及び乗船実習科 (p.43) を修了後、講習受講により取得できます。

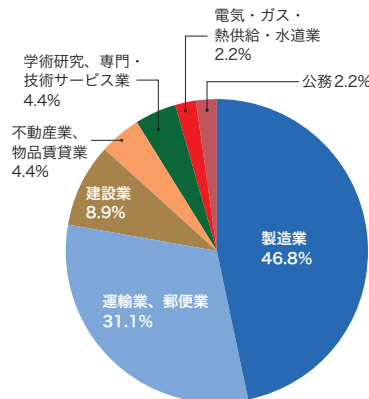
卒業後の進路

大学院進学	28.1%
乗船実習科進学	23.4%
就職	48.5%
その他	0.0%

乗船実習科への進学・修了後、86.7%が海上職に就いています。

主な就職先

飯野海運、石井鐵工所、いすゞ自動車、出光タンカー、今治造船、NSユニテッド海運、NOK、海技教育機構、かもめプロペラ、川崎汽船、キヤノン、国土交通省、五洋建設、JXオーシャン、ジャパンマリンユニテッド、商船三井、スズキ、セイコーエプソン、全日本空輸、ダイキン工業、ダイハツディーゼル、常石造船、東亜建設工業、内海造船、IHI 原動機、日本海事協会、日本海洋掘削、日本郵船、日立建機、富士通ゼネラル、三井 E&S マシナリー、三菱電機、ヤマハ発動機、ヤンマー



平成31年3月卒業生業種別就職状況 (令和元年9月乗船実習科卒業生含む)

学科担当教員の研究分野・内容

■ 内燃機関

船用ディーゼル機関の燃焼および排ガス浄化に関する研究

■ ターボ動力

蒸気およびガスタービンシステムに関する研究

■ 機械設備

冷凍・空調に関連するシステムなどのエネルギー有効利用に関する研究

■ 動力エネルギー

船用ボイラや原子炉等の伝熱流動特性の改善や安全性の向上に関する研究

■ 電気動力

パワーエレクトロニクスに基づく電力変換技術と船舶省エネに関する研究

■ トライボロジー

材料、設計、潤滑のアプローチから機械の摩擦・摩耗特性を向上する研究

■ エネルギー変換

家庭・産業用の冷凍空調機器・ヒートポンプ・熱交換器の省エネ・システム高性能化に関する研究

■ 機械材料

船舶・海洋機器に適用する表面処理技術・防食および海洋利用発電に関する研究

■ 機械設計

小型機械から大型機械まで、可動部の摩擦潤滑に関する研究

■ システム物理

シミュレーション等への物理学の応用研究

■ 電子デバイス

分子デバイス・バイオセンシング素子の開発等、これまでにない機能を持つ新規デバイスの研究

■ ロボット

水中・水上ピーグルなど海洋探査機器ならびに関連要素技術に関する研究

■ オートマティクス

制御システムの設計法とその船舶、ロボット、プラントなどへの応用についての研究

■ 機関管理

船舶の機関室全体の最適管理に関する研究

■ 情報通信

ソフトウェア、ハードウェアを通じた情報通信技術と応用に関する研究

■ 電子制御

産業機器、交通・輸送機器等の電子制御、コンピュータ制御に関する研究

■ 大気環境物理

地球大気、雲、エアロゾル等が地球環境へ与える影響に関する研究

流通情報工学科

商品や貨物を、ムダがないよう、効率よく生産・輸送・保管し、企業の国際的な物資・情報の流れを計画・管理することをロジスティクスといいます。ロジスティクスでは、輸送・保管の技術・方法はもちろん、企業・経済の仕組み、商品の発注や品質の維持のための情報システム、環境問題などについての知識が必要となります。

流通情報工学科では、工学系（流通工学）・社会科学系（流通経営学）・情報系（数理情報）の3つのカリキュラムを融合させ、幅広い知識を習得し、ロジスティクスについて体系的に勉強します。また、理論と実践のバランスのとれたカリキュラムと少人数教育を通じ、丁寧で質の高い指導を実現し、広い視野と高い問題解決の能力を有する学生を育成します。

教育内容の概要

1、2年次に国際交流の基盤となる、幅広い視野と豊かな人間性の育成を目指すために、主として哲学・科学論系、社会科学系、外国語系等からなる総合科目と数学や情報科目等からなる基礎教育科目を開講します。

3、4年次に現代社会の大規模かつ複雑な諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力、課題解決能力、コミュニケーション能力を養うために、ゼミナール及び卒業研究を開講します。

また、4年間を通じて論理的思考能力や適切な判断力を養うために、少人数体制による理論と実践を共に重視した授業を実施するとともに、ロジスティクスのスペシャリストとしての幅広い教養、深い専門的知識による問題解決能力を養うために、工学系（ロジスティクス・交通計画・物流システム）、情報系（数理情報・データサイエンス・システム工学・プログラミング）、社会科学系（経済学・商学・経営学）の3分野の科目をバランスよく開講します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1年次	2年次	3年次	4年次	
総合科目	総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康 Practical English I, II * Basic English I, II * 情報リテラシー* 日本語表現法* 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ系、第二外国語など Effective English I, II Interactive English I, II Intensive English I, II 			
	基礎教育科目	<ul style="list-style-type: none"> 微分積分 I, II * 線形代数 I, II * 物理学* 情報処理基礎論* 基礎ゼミナール 				
専門科目	情報系	<ul style="list-style-type: none"> 基礎プログラミング演習* 	<ul style="list-style-type: none"> 最適化数学 確率論* 流通情報システム* データサイエンス演習* データ構造とアルゴリズム* 応用プログラミング* ラプラス・フーリエ解析 複素解析 データベース工学 	流通情報工学ゼミナール・II *	<ul style="list-style-type: none"> 機械学習 数値解析 通信ネットワーク データサイエンス 	
	工学系	<ul style="list-style-type: none"> 物流施設計画学 コンテナ輸送工学* ロジスティクス概論* 	<ul style="list-style-type: none"> 物流リスク工学 流通情報工学実験* 流通基盤計画学* 流通最適化学* 物流管理工学* 		<ul style="list-style-type: none"> 流通データ分析 流通オペレーションズ・リサーチ 通関実務論 交通計画学 作業管理工学 港湾環境工学 衛星測位工学 安全工学 海洋開発環境エネルギー概論 流通情報工学演習* 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究*
	社会科学系		<ul style="list-style-type: none"> 物流経済論 産業政策論* 流通経済論* 交通経済論* 国際経済論* キャリア形成論 		<ul style="list-style-type: none"> マーケティング論 保険契約法 産業経済論 流通チャネル論 国際交通論 都市交通論* 損害賠償法 船用工業実務論 	

1 週間の時間割例

【1年次】総合科目、基礎科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	計算機科学	統計学	Practical English I	Basic English I	電子機械工学入門
2	ロジスティクス概論		ドイツ語 I		海洋工学概論
3		物理学	化学熱力学	線形代数 I	天文学
4	スポーツ I	微分積分 I	情報リテラシー	哲学	
5					

【3年次】専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					作業管理工学
2	湾港環境工学		機械学習	データサイエンス	通関実務論
3	流通情報工学演習	国際交通論		Intensive English I	交通計画学
4	損害賠償法	産業経済論	流通オペレーションズリサーチ	Interactive English I	
5					流通情報工学ゼミナール I

取得可能資格

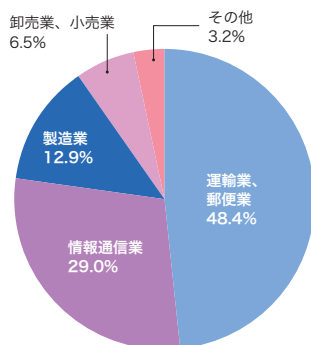
- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 授業で関係する内容を学べる資格：情報処理技術者、通関士、中小企業診断士、ビジネス・キャリア検定（ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション）

卒業後の進路

大学院進学	17.5%
就職	77.5%
その他	5.0%

主な就職先

味の素物流、いすゞ自動車、SBSリコーロジスティクス、岡村製作所、キヤノン、近鉄エクスプレス、鴻池運輸、山九、JR 東日本、JR 東日本情報システム、ソニーサプライチェーンソリューション、ダイフク、月島倉庫、東芝ロジスティクス、ニチレイロジグループ、日通 NEC ロジスティクス、日本通運、日本パレットレンタル、日立物流、フコク情報システム、富士通、三井住友海上火災保険、三菱商事ロジスティクス、三菱倉庫、三菱電機ロジスティクス、安田倉庫、郵船ロジスティクス



平成 31 年 3 月 卒業生 産業別就職状況

学科担当教員の研究分野・内容

■ 物流安全工学・物流環境工学

3次元重心検知理論に基づく物流現場の安全確保・環境改善

■ 地域計画

地域・都市を支える交通など基盤施設の計画とその工学的研究

■ 物流システム工学

空間情報工学・自動認識技術の活用による物流の安全・効率性

■ 作業管理

物流センター内業務の改善及び物流の環境負荷低減

■ サプライ・チェーン最適化

サプライ・チェーンにおける様々な最適化モデルとアルゴリズム

■ 流通情報システム

情報通信技術による流通システムの高度化

■ 数理物理学

自然や社会・経済、情報、人工知能等における数理構造の解明と応用

■ 応用数学

可積分系、力学系及び多項式最適化の研究

■ 非線形解析

応用数学における最適化問題、非線形問題の理論的研究

■ 比較教育学

タイ教育の研究、ASEAN 諸国の教育研究

■ 水産物加工・流通

水産物流通の主幹をなす卸売市場システム、及び構造変動する水産加工業の研究

■ 産業経済

グローバル化とイノベーションに伴う産業構造の変化と企業の対応

■ 公共経済

国際化・地方分権時代の公共部門と民間部門の役割分担

■ 国際経営

企業の海外進出行動・戦略の多様化と経済的影響

■ マーケット・デザイン

効率的な市場の設計の研究

■ 機械学習

機械学習を用いた時系列データのモデリング手法の開発と新たな流体モデルの構成